

「4 3rd ミーティングに関する報告書」(2005.4.2)

戦略研4 3rd ミーティング 議事録

「少子化の問題点とはなにか？」

2004年4月2日(土) 14:00~18:00

東京・竹橋

参加者(17名)

経営戦略コンサルタント、SE、大学生、会社員、システムコンサルタント、人材採用コンサルタント、税理士、ラジオパーソナリティ、行政書士、司法書士他

企画

2005戦略研少子化問題委員会

趣旨

今回は、参加者全員による問題点抽出のためのブレインストーミングを行います。この問題点抽出をもとに、戦略研年間テーマである少子化の具体的な方向性を確定します。

概要 1) 会の説明

2) 参加者による近況報告

3) ブレスト「少子化の問題点とはなにか？」

内容

1) 会の説明

- ・ 会の立上げから現在までの沿革、またNPO法人など現在の各プロジェクトについて説明
また、メンバーのリピーター化によるナレッジの蓄積が会の成長やさらなる展開につながる

2) 参加者による近況報告

- ・ 所属する事業部の改革案を提出のとのこと
- ・ FM世田谷の農業番組の放送枠が広がったとのこと
- ・ アプリケーション開発などのプロジェクトに携わっているとのこと
- ・ 仕事で3月に大きな動きがあり、忙しかったとのこと
- ・ 最近、危機管理の分野に取り組んでいるとのこと
- ・ 来る途中に、ファイト(ホワイト?)餃子の店に寄られたとのこと
- ・ ブログにポジティブな情報は載せることはできるけど、ネガティブな情報は、クレームが来る可能性があるとのこと、
- ・ 子供と親を交え、ネイチャーゲームを通して自然に親しむというプロジェクトに携わったそうです。
- ・ 社員の教育支援など、企業人事部の相談・依頼を受けているとのこと

- ・先日、仕事が立ち上がったばかりにて、出張とのこと
- ・メールの書き方についての取材を受けたとのことですが、内容の最後のほうがカットされ、言いたいことが十分反映されなかったとのこと
- ・最近、法人の顧客の相談に乗ることが多いとのこと
- ・最近、知的財産の分野に興味があるとのこと
- ・農業学生ユニットの勧誘活動の手伝い中ですとのこと
- ・最近、個人情報保護法関連の仕事が多いとのこと
- ・改正商法が来年施行予定とのこと
- ・ラトビア・ラオス・イランなどの国々で、森林伐採の削減などのコンサルティングをなさっていたとのこと

4) ブレインストーミング「少子化の問題点とはなにか？」

配布資料「子どもと教育の問題点と提案」

概要

1. ブレストのルール付けと、配布資料をもとに状況説明
2. ブレインストーミング

1. ブレストのルール付けと、配布資料をもとに状況説明

出生率向上が叫ばれるが、この目的は何か。また、いまから出生率向上が成功しても、成果が現れるのは30年後、それまでの人口減少社会への対応の検討が必要ではないか。

などを、配布資料の現在挙げられている問題点とともに説明

以降の2005年戦略研については、今回抽出の問題点を基礎に、「少子化と〇〇〇」というように、キーワードをクロスさせて、各回開催していく。キーワードは、政治、経済、企業、社会など各分野にわたる。この上で、2005年末に、戦略研として社会に提言を行うことを目標とする。

なお、少子化関連の専門家・有識者の招聘も検討している。

2. ブレインストーミング

「少子化の問題点とはなにか？」～少子化の問題点抽出～

- ・出生率を上げるというだけなら話す必要はない。
- ・何のために、少子化対策をするのか？
→日本のこれからのビジョンはどのようなものか。
- ・人が少なくなると日本の国際競争力が低下する。
- ・税収が落ちてしまうので、日本の財源をどこに求めるのか。
→今までに公共事業で建設したものを維持・運営するだけで、現在の公共事業費と同等の金額が必要となる。
- ・出生率を上げて、その効果が現れてくるのは30年後。

- ・水窪（みさくぼ。静岡県北西部）。少子高齢化の典型的なモデル。
既に競争力も落ちてきていて、衰退する方向に。
- ・まず、日本はアメリカに勝つ必要はあるのか？
それさえ考えなければ、既に先進国として十分な程度の水準以上まで成長している。
- ・戦後50年で人口が倍増したが、それはそもそも異常。
- ・高齢者といっても皆が同じわけではなく、
60歳の人（1次高齢者）もいれば、80歳（2次高齢者）の人もいる。
一緒くたにはできない。
- ・政治。人口が減少すると、東京に若者が集まらなくなるかも。
→その代わりに、地方の中核都市に若者が集まる？
→地方の中核都市以外は過疎化がさらに進む？
- 問題。年金財源が足りなくなる。
→お年寄りと定義されるものを少なくすればいい。
→働いてもらう？
- ・人口構造、二次ベビーブーム世代を支える人・世代がない。
→移民を受け入れる？
- 問題。地域のコミュニティーが衰退し、地域コミュニケーションがさらに減ってしまう。
- 問題。働く人が少なくなる。
→現在のニート、フリーターの問題。
→現在のニート、フリーター世代はこれからの税財源のメインとなる人々。
→しかし、コンビニアルバイトのようなレジ打ち等は電子化・機械化によって今後必要なくなる。
→では、どのような労働に従事することができるのか？
- ・フリーター・ニート。周りに頼る思考をする傾向。
- ・働かなくても暮らせてしまう現状がある。
- ・生活保護を支給する行政としては働いて欲しいけど、困窮していれば出さざるを得ない。
- ・働かざるを得ない環境を作り出すか？
- ・まず、物価が高い。特に、土地。
- ・将来への不安はどこからくるのか？
→不安があると子供を産まなくなる。
- ・機械化・外注化ばかりしていると、技術が海外へ流出し、優秀な人材が育たなくなってしまう。
- ・今は外国（中国やインド、シンガポール？等）の人の方が優秀なのに日本人より安い賃金で働く。
- ・そういった外国人は優秀なので、管理職につくケースも良くある。
→支配される。
- ・日本の金融資産：1400兆円。
→資産の流動化を図る。
- ・結局、日本のビジョンが無いと対策が立たない。
- ・日本はやはりものづくりが売り。
・・・大田区、中小企業。

- ・人材が売りの国は、ナレッジマネジメントに力を入れている。
シンガポール。教育レベルが高い
→それだけ予算も投入している
- ・どこかの点で他の国との差別化を図らなければならない。
- ・30年後の世界情勢はどうなっているのか？
中国。より豊かになればなるほど、分裂の危険をはらむ。
アジア団結の必要？
- 教育の問題。社会は結果の競争を、しかし教育は結果の平等を目指す。
→教員の質、教育の内容に疑問。特に公教育。
- ・働く場所。NPOが受け皿になるか？
- 結局、国際競争力と年金が問題。
→経済の不活性。
→心理的な要因もある。
- ・日本の1人あたりのGDPは米国に比較して低い。
- ・人口が減少すれば、国内マーケットは縮小する。
→人口は確保すべき。
→やはり、移民すべきか？
- ・アメリカは移民が沢山集まったが、ビジョンが明確だった。
→日本のビジョンは？
- ・移民はどうしても低所得者になってしまう可能性。
- ・海外に日本製品を売りつけるとすれば、質の高い消費者が必要になる。
- ・公共事業に対する予算の投入と、雇用に対する予算の投入を逆転させる。
- ・過疎化は進む？
→あまりに進めと、公共サービスの効率が悪化する。
→都市への過密化が進む？
- 問題。晩婚化は何故進んだか？
・贅沢になった。
・家族生活がそこまで面白くない。
・女性の社会進出。
・女性に対する封建制。
・結婚相手がフリーターになってしまえば、生活設計ができなくなる。
→女性が男性を養おうとしても、女性に子どもができたり、会社が傾いてしまえば、やはりできない。
⇒補助金や、税制の優遇、社会的なバックアップが必要になる。
そうでないと、不安が残ってしまう。
- ・子供がいても、幸せになるというビジョンが描きにくい。
- ・老人ホームのお年寄りが子どもたりの面倒を見るというのは？
→礼儀正しくなる
→晩婚化するとそれだけ、お年寄りも子どもを甘やかしがちなので、効果は疑問残る。

- ・そもそも、適正人口って何？
- ・伸びている会社は人を取る、ということもある。
- ・今までどおりのルールで上手く社会が動くのが適正であるという考え方。
- ・公務員を減らす。
 - 財政が良好になる。
 - お金をほんとうに必要なところに回す。
 - それこそ育児などの分野に。
- ・職業別出生率は？
(自営業・会社員・公務員等)
- ・健康問題。
- ・海外へ移住。
 - 物価の安いところへ。
- ・年金払わない
 - 若い人から徴収しない。
- ・金融資産などを（信用取引で）運用する？
- ・人を増やすにはお金が必要で、お金を増やすには人しかない。
- ・少子化問題はあらゆる領域にまたがっているため、それぞれの分野での検討が必要である。
- ・企業が少子化対策に対する支援を行ってはどうか。
- ・ロボットに子どもの面倒を見させる。
- ・夜間外出禁止令を出し、家庭に帰らせる。
- ・高齢者の農業熱。
 - 自給自足（農業とお年寄り）
- ・お年寄り、特に会社員だった人はコミュニケーションの場が少ない。
 - 行く必要が無いのに病院に集まったりするのに
 - それ以外のコミュニケーションの場を持たない人もいる？
- ・以前は60歳前後で死ぬことが多かった。
 - 年金システムの大幅変更。
- ・成果主義を撤回する。
 - 年功序列制に戻す。
 - 生活が安定する。将来への安心感が生まれる。
- ・ラオス。子どもが良く働く。
 - 働き手として産む。
- ・子どもを社会に参画させる。
- ・極論すれば、「良い子」は本当に必要なのか？
 - 「良い子」では、大人になって社会に対応できない。
 - 教育は、「良い子」を作るためにあるのではなく、大人になる過程にて育てているということでは。
 - 自立させることが重要。
- ・半日学校制度にする。

→コミュニティーでのコミュニケーションを推進する。

- ・子供がいないと困る状況を作り出す。
- ・子供、学校、地域、家庭、企業を結びつけて考えるべき。
→地域をコアと考える意見と、家庭がコアと考える意見がある。
- ・企業に関しては、出産・子育てに関するCSRが重要になってくる。
→中小企業は苦しくないか？
- ・企業に託児所を設ける。
- ・やはり、大人は働き、子どもは国か公が面倒を見る。
- ・武士の世界に戻す？
→武士は、あえて自分の子を自分で育てないこともあった。

・グラフ（省略）。

ある程度例外もあるが、15歳～20歳、60～80歳の人は、それ以外の世代に、介護などの形で余剰能力を回すことができる。

- ・小児科は診療費が安いので、なろうとする人が少ない。
→どうして医療保険の給付を大人並みにしないのか？
- ・むしろ、小児科医はとても必要とされる。
- ・「小児科」と書くと、子どもと親が押し寄せてくるので、とてもではないが、そんなことはできない。
→子どもと大人では症状の違いのあることも多いので、子どもをあまり診たことのない内科医がそのような子どもたちを診ることは、危険。

以上。